

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月9日
【四半期会計期間】	第91期第1四半期（自平成25年4月1日至平成25年6月30日）
【会社名】	小池酸素工業株式会社
【英訳名】	KOIKE SANSO KOGYO CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 横田 修
【本店の所在の場所】	東京都江戸川区西小岩三丁目35番16号 (同所は登記上の本店所在地であり、実際の本社業務は「最寄りの連絡場所」で行っております。)
【電話番号】	03(3624)3111(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理部長 岡崎 隆
【最寄りの連絡場所】	東京都墨田区太平三丁目4番8号
【電話番号】	03(3624)3111(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役管理部長 岡崎 隆
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) 小池酸素工業株式会社 城北支店 (埼玉県川口市領家三丁目10番19号) 小池酸素工業株式会社 千葉支店 (千葉縣市原市八幡海岸通47番地) 小池酸素工業株式会社 京浜支店 (神奈川県川崎市川崎区宮本町8番地15) 小池酸素工業株式会社 名古屋支店 (愛知県名古屋市瑞穂区牛巻町12番地9) 小池酸素工業株式会社 大阪支店 (大阪府大阪市城東区中央二丁目4番15号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第90期 第1四半期連結 累計期間	第91期 第1四半期連結 累計期間	第90期
会計期間	自平成24年4月1日 至平成24年6月30日	自平成25年4月1日 至平成25年6月30日	自平成24年4月1日 至平成25年3月31日
売上高(百万円)	9,611	8,833	41,100
経常利益又は経常損失() (百万円)	21	41	1,402
四半期(当期)純利益又は四半期純損失 () (百万円)	285	133	1,020
四半期包括利益又は包括利益(百万円)	567	386	2,004
純資産額(百万円)	23,357	24,827	24,704
総資産額(百万円)	48,964	49,960	49,355
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額()(円)	6.82	3.21	24.52
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期) 純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	44.88	46.55	46.94

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 第90期第1四半期連結累計期間及び第90期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第91期第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1)業績の状況

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、欧州の景気低迷や新興国経済の減速などがありましたが、米国経済の回復基調に支えられ、総じて緩やかな回復の動きが見られました。

一方、わが国経済は、新政権の経済政策への期待感などから円高や株安からの脱却、企業収益の改善など景気の着実な持ち直しが見られたものの、本格的な実体経済の回復には至らないまま推移しました。

当社グループの主要先である鉄鋼、造船、産業機械、建設機械などの各業界においては、輸出環境の改善などから一部に回復の動きが見られましたが、設備投資の低迷や中国の鉄鋼生産が高水準で継続したことによる供給過剰などの影響を受けて低調に推移しました。

このような状況のもと、当社グループは世界市場に向けた新技術・新製商品の開発と販売力強化、生産効率の向上、原価低減や経費削減に取り組みましたが、その効果は限定的なものとなりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は88億33百万円（前年同期比8.1%減）、経常損失は41百万円（前年同期は経常利益21百万円）、四半期純損失は1億33百万円（前年同期は四半期純利益2億85百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

機械装置

機械装置部門においては、5月から創業95周年を記念したグランド95キャンペーンパートを開始するとともに、実演車を活用した全国巡回販売を開始しました。

海外においては、北京エッセンショーに「FIBERGRAPH-2520」と新開発の低価格NC切断機「FLEXIGRAPH」を出展、インドネシアで開催されたMTT Expo 2013とタイで開催されたINTERMACH 2013に「PNC-10」、「MAXIGRAPH」を出展しました。

技術開発面においては、販売を開始したファイバーレーザー切断機の性能向上や、小池グループ共通コントローラーのソフト拡張などを進めました。また、生産面においては、既存製品、部品のコストダウンによる競争力強化に継続して取り組みました。

しかしながら、市況低迷の影響を受け、実績に結びつけることができませんでした。

その結果、売上高は34億41百万円（前年同期比16.9%減）、セグメント損失は1億24百万円（前年同期はセグメント損失41百万円）となりました。

高圧ガス

工業用ガスにおいては、主要顧客の需要が低迷しており、酸素・窒素などのセパレートガスをはじめとした主要ガスの販売量は全般的に低調に推移しました。また、電気料金の上昇や原材料の高騰など工業用ガスにとって厳しい環境のもと、価格改定活動に取り組みましたが、十分な成果をあげることはできませんでした。さらに、新たな営業展開として、ヘリウム液化機に係わる研究機関に対して、周辺ガスの獲得に向けた営業を開始するとともに、国内の炭酸ガス不足を受け、輸入ドライアイスの販売を開始しました。

生産面においては、保安確保のため容器RFタグ（ICタグ）への対応に向け、容器管理システムの更新を実施しました。また、ガス製造工場では製造設備の更新を行い、安定供給、品質確保、原価低減に努めました。

医療分野においては、酸素濃縮器のサービス部門の強化・品質向上に努めるとともに、検査関連の営業強化により「ジャスミン」（睡眠時無呼吸症候群治療装置）の契約件数が増加しました。また、新型「クロモフェアF」（LED无影灯）は評価が高く、積極的に営業展開を図り、好調に推移しました。

その結果、売上高は36億62百万円（前年同期比0.8%増）、セグメント利益は2億6百万円（同1.3%増）となりました。

溶接機材

溶接機材部門においては、高層ビル、倉庫などの需要に対する建築・鉄骨向けの販売量の増加はありましたが、造船、建設機械、自動車向けは伸び悩み、全体の販売量が減少したため、溶接材料の販売強化を図ることを目的として新潟に流通拠点を設置し、新規販売先の拡大に重点をおいた営業活動を開始しました。

溶接機器においては、溶接機、安全保護具、乾式安全器、溶接関連商品の拡販を図るためグランド95キャンペーンパートを5月から開催し、ユーザー巡回などの販売促進活動を実施しました。また、溶接機の拡販を目的とした各地区展示会を開催するとともに、鋼板の厚板溶接のコストダウンに結びつくサブマージアーク溶接機と溶接材料のセット販売を推進しました。さらに、輸入商品の販売促進のため、ドイツ・ダイヤモンド社を訪問し、同社の金属補修剤の新商品の説明を受け、今後の販売開始にむけた市場調査を行いました。

その結果、売上高は16億39百万円（前年同期比7.7%減）、セグメント利益は4百万円（同75.5%減）となりました。

その他

ガス機器においては、大型ヘリウム液化機の引合いが増加し、大学研究機関から1台受注しました。排ガス処理装置に関しては、国内半導体・液晶メーカーの統廃合が進み、これに合わせて製品の改良を行うとともに、電子部品の製造業界団体に対し、新型排ガス処理装置の販売活動を実施しました。また、上海で開催された国際太陽光展示会に出展しました。

その結果、売上高は89百万円（前年同期比49.0%増）、セグメント損失は1百万円（前年同期はセグメント損失39百万円）となりました。

(2) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

当第1四半期連結累計期間における当社グループの研究開発活動の金額は、95百万円であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	179,100,000
計	179,100,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	45,229,332	45,229,332	東京証券取引所 (市場第二部)	単元株式数 1,000株
計	45,229,332	45,229,332		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日		45,229,332		4,028		2,366

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成25年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 4,294,000	-	単元株式数 1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 40,570,000	40,570	同上
単元未満株式	普通株式 365,332	-	-
発行済株式総数	45,229,332	-	-
総株主の議決権	-	40,570	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が54,000株(議決権の数54個)含まれております。

【自己株式等】

平成25年6月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
中国アセチレン株式会社	山口県宇部市大字東須恵3903番地の3	401,000	60,000	461,000	1.02
株式会社エイ・エム・シー	東京都足立区入谷七丁目11番12号	20,000	-	20,000	0.04
ケーエム酸素株式会社	茨城県つくばみらい市伊奈東33番9号	8,000	-	8,000	0.02
大阪液酸株式会社	大阪府大阪市生野区巽南三丁目2番10号	1,000	-	1,000	0.00
小池酸素工業株式会社	東京都墨田区太平三丁目4番8号	3,804,000	-	3,804,000	8.41
計	-	4,234,000	60,000	4,294,000	9.49

(注) 他人名義として所有している株式は、取引先による持株会「小池酸素工業取引先持株会」(東京都墨田区太平三丁目4番8号)名義のうち、相互保有株式の持株残高を記載しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、東光監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
 (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	8,615	9,424
受取手形及び売掛金	3 12,271	3 10,888
商品及び製品	4,447	4,844
仕掛品	1,515	1,715
原材料及び貯蔵品	1,788	1,891
その他	957	1,123
貸倒引当金	227	266
流動資産合計	29,369	29,621
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,721	3,704
機械装置及び運搬具(純額)	1,355	1,352
工具、器具及び備品(純額)	530	508
土地	9,132	9,140
リース資産(純額)	654	675
建設仮勘定	244	472
有形固定資産合計	15,638	15,852
無形固定資産		
のれん	360	371
リース資産	13	11
その他	156	154
無形固定資産合計	531	537
投資その他の資産	2 3,816	2 3,948
固定資産合計	19,985	20,338
資産合計	49,355	49,960

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3 9,625	3 9,367
短期借入金	4,036	3,508
1年内返済予定の長期借入金	952	1,208
1年内償還予定の社債	140	90
未払法人税等	366	86
賞与引当金	499	446
役員賞与引当金	64	13
製品保証引当金	23	26
その他	2,577	3,172
流動負債合計	18,286	17,919
固定負債		
社債	100	100
長期借入金	1,714	2,592
退職給付引当金	262	249
役員退職慰労引当金	231	210
資産除去債務	13	13
その他	4,042	4,047
固定負債合計	6,364	7,213
負債合計	24,650	25,133
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,028	4,028
資本剰余金	2,357	2,357
利益剰余金	16,882	16,501
自己株式	909	909
株主資本合計	22,359	21,977
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	587	668
土地再評価差額金	1,233	1,233
為替換算調整勘定	1,012	622
その他の包括利益累計額合計	808	1,279
少数株主持分	1,536	1,570
純資産合計	24,704	24,827
負債純資産合計	49,355	49,960

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	9,611	8,833
売上原価	7,280	6,557
売上総利益	2,331	2,275
販売費及び一般管理費	2,347	2,438
営業損失()	15	162
営業外収益		
受取利息	2	5
受取配当金	26	27
受取賃貸料	23	27
物品売却益	7	7
為替差益	14	91
貸倒引当金戻入額	2	10
その他	13	9
営業外収益合計	90	178
営業外費用		
支払利息	27	34
賃貸費用	14	13
その他	10	9
営業外費用合計	52	56
経常利益又は経常損失()	21	41
特別利益		
固定資産売却益	668	-
役員退職慰労引当金戻入額	-	1
特別利益合計	668	1
特別損失		
固定資産除売却損	1	1
減損損失	12	-
その他	0	-
特別損失合計	13	1
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	676	40
法人税、住民税及び事業税	306	17
法人税等調整額	58	62
法人税等合計	365	79
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	311	120
少数株主利益	25	13
四半期純利益又は四半期純損失()	285	133

【四半期連結包括利益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	311	120
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	137	83
為替換算調整勘定	393	423
その他の包括利益合計	256	506
四半期包括利益	567	386
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	506	337
少数株主に係る四半期包括利益	61	48

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

連結会社以外の会社の金融機関等からの借入に対し、債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)	
新洋酸素株	39百万円	新洋酸素株	32百万円
小池高压ガス(協)	130	小池高压ガス(協)	142
川口総合ガスセンター株	31	川口総合ガスセンター株	27
株市川総合ガスセンター	16	株市川総合ガスセンター	15
計	217	計	217

2 資産の金額から直接控除している貸倒引当金の額

前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)	
投資その他の資産	139百万円		139百万円

3 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

前連結会計年度 (平成25年3月31日)		当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)	
受取手形	268百万円		300百万円
支払手形	2		4

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	273百万円	297百万円
のれんの償却額	39	23

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	293	7.0	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	248	6.0	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	機械装置	高压ガス	溶接機材	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	4,141	3,633	1,776	9,551	60	9,611	-	9,611
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	4,141	3,633	1,776	9,551	60	9,611	-	9,611
セグメント利益 又は損失()	41	203	20	182	39	143	159	15

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、燃焼式排ガス処理装置、ヘリウム液化機、加熱プラズマ機器の製造・仕入・販売業が含まれております。

2. セグメント利益の調整額 159百万円には、のれんの償却額 39百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 242百万円及びたな卸資産の調整額36百万円、その他の調整額86百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	機械装置	高压ガス	溶接機材	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	3,441	3,662	1,639	8,743	89	8,833	-	8,833
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	-	-	-	-	-	-	-
計	3,441	3,662	1,639	8,743	89	8,833	-	8,833
セグメント利益 又は損失()	124	206	4	87	1	85	247	162

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、燃焼式排ガス処理装置、ヘリウム液化機、加熱プラズマ機器の製造・仕入・販売業が含まれております。

2. セグメント利益の調整額 247百万円には、のれんの償却額 23百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用 235百万円及びたな卸資産の調整額 6百万円、その他の調整額18百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	6円82銭	3円21銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (百万円)	285	133
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額又は四半期純損失金額()(百万円)	285	133
普通株式の期中平均株式数(千株)	41,876	41,424

(注) 前第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため、当第1四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失金額であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年8月6日

小池酸素工業株式会社
取締役会 御中

東光監査法人

指定社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木 昌也 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 外山 卓夫 印

指定社員
業務執行社員 公認会計士 中川 治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている小池酸素工業株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、小池酸素工業株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。